

ほっかいどうの社会保障

2012年1月7日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

高齢者住宅、医療との連携、地域格差等懸念相次ぐ！

—第3回北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画検討協議会行われる—



1月6日、標記検討協議会が行われました。事務局から「第5期『北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画』（素案）が提案され、協議しました。今回出された意見も含めて、1月中旬～2月中旬までパブリックコメントを行い次回会議（2月20日・月）で案としてまとめる方向です。

新たに1.2万人の介護職員が必要 続く地域間の格差

素案では、（12月時点で道内市町村集計から）北海道は全国を上回る高齢化と増える認知症高齢者や単身・高齢夫婦のみ世帯への対応が課題であること。高齢者人口は2014年度には約150万人（高齢化率28.5%）で要介護者数は28.9万人（+3.6万人）に増え、必要な介護職員は7.8万人と推計し、第5期中に新たに約1.2万人が必要と推計しています。

サービス提供体制では、地域間格差があり、サービス利用実績がない保険者があることも指摘しています。

計画の基本テーマは、「みんなが支え明るく活力に満ちた高齢社会づくり」、第4期の基本的目標に、「地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築」を加えました。計画推進の8つの基本方針もち、利用者数など目標値も示しています。

計画推進のための具体的取組では、課題は示していますが、具体的な施策や予算は示していません（詳しくは素案本文をお読み下さい）。パブコメで意見を集中しましょう。

- 第1 計画の基本的事項（趣旨）
- 第2 高齢者等の現状と将来推計
- 第3 サービス供給体制の現状と評価
- 第4 計画推進のための基本的事項
- 第5 サービス量の見込みと基盤整備
- 第6 計画推進のための具体的取組
 - 1 介護サービス提供基盤の整備
 - 2 人材の養成と確保
 - 3 サービスの質の確保・向上
 - 4 認知症高齢者施策の充実
 - 5 医療との連携
 - 6 高齢者の居住に係る施策
 - 7 生活支援体制の整備
 - 8 健康づくりと介護予防の推進等
 - 9 高齢者の積極的な社会参加
 - 10 介護保険事業の円滑な推進のための方策
 - 11 計画の推進管理

増える高齢者住宅 権利侵害は？必要な介護保険計画が立てられないのでは・

・高齢者向けの住宅が増え、そこで外部からの介護事業が行われている。A市では、昨年末特養（80床）がオープンした。待機者も多かったが、まだ満床になっていない。安い高齢者住宅に入居しているようだ。必要な介護保険施設が計画されなくなるのでは。

・高齢者住宅の中には、「いわゆる貧困ビジネス」で、利益確保のため、必要以上の介護事業が行われる可能性もある。そのため、介護給付費が上がり高い保険料になることはないのか？

・高齢者の虐待や権利侵害の可能性はないのか？入院すると、すぐに退去しなければならない。

・90歳が90歳を介護している現実がある。家族の介護は限界。待機待ちの特養ではなく、すぐに入れる高齢者向けの低家賃の住宅に入れてしまう。

・B市でも高齢者住宅が増えている。家賃は生活保護の住宅扶助と同額なので利益がでないため、同じ系列の別会社が介護事業を行い、同列の別の給食会社が食事を提供している。これまで訪問診療をしていたが診療所も作ったと断られた。完全に囲い込んでいる。これは有料老人ホームでもないで監査の対象にならない。

⇒道 今は補助金も付けて推進している状況。可能な範囲で監視したいが、問題が顕在化したら対応検討（国は、高齢者住宅を増やし外部からの介護事業の推進をして、予算削減や特養の待機者解消も狙っています）

「医療機関との連携がうまくいかない」「このままでは、地域間の格差は解消できない」などの意見も出されました。（地域医療が崩壊寸前。地域医療を守ることや施設も含めて高齢者の暮らしを考えることが大切ではないでしょうか）

1月15日（日） いずれも日下部雅喜さん（大阪社保協介護保険対策委員）が講演します。



利用者・高齢者のための介護を「ヘルパー・ケアマネ交流集会」

9:30～12:30 北海道建設会館 9階ホール 資料代500円

介護保険5期計画案で保険料・サービスどうなる学習会

13:30～15:30 かでる2・7（940研修室） 資料代500円

主催 北海道地域・自治体問題研究所[医療福祉部会]